

第3次徳島市生活排水対策推進計画策定のための市民会議

第2回会議 議事要旨

令和4年7月5日(火) 午後2時～3時30分

徳島市役所8階 庁議室

1 開会

2 議事内容

<委員自己紹介>

新たに委員となった委員より自己紹介(環境保全に関するこれまでの活動歴など)が行われた。

事務局

これより議事に入ります。市民会議設置要綱第6条の規定によりまして、会長に会議の議長をお願いいたします。それでは会長、よろしくをお願いいたします。

会長

それでは、議長ということで進行役をいたします。どうぞよろしくをお願いいたします。本日の議題は、「計画の目標、施策の検討について」となっております。

事前に事務局より資料をみなさんにお送りしていますので、目を通していただいているかと思えます。

今日は、この事務局の資料の内容をたたき台としてみなさまと意見交換を行い、市民会議の意見としてまとめていきたいので、ご協力をお願いします。

議論に入る前に、まずは事務局より、会議資料について説明をお願いいたします。

事務局

<資料に沿って第3次生活排水計画について説明>

委員

計画について事務局から説明がありましたが、私のほうから一つ、定量目標1の生活排水が適切に処理されていると感じる市民の割合を70%にするとあるが、定量目標2の汚水処理人口普及率を90%にすると一致していかないといけない。つまり下水道と浄化槽を増やすことで汚水処理人口普及率を上げていくことになるが、これより市民の感じる割合が低いということは、どこかに問題があるのではないかと?

現在、汚水処理人口普及率は82%なのに対して、市民の感じる割合が59%と低い割内はなぜなのか?そういうところ、もう少し啓発をして、みんなで作っているんですよ、という話をして欲しい。令和12年度の目標値も市民の感じる割合も90%にして欲しい、と思う。

事務局

目標1と目標2の数値が乖離している理由については、身近な水路や側溝の水質改善は十分に進んでいないのではないかと、また、市民の皆さんに徳島市の水環境の状況が十分に伝わっていないのではないかと、とも考えています。そこで、目標5では、水環境や生活排水をテーマにした出前環境教室への参加者数をあげています。

こうした啓発を充実させることで、目標1と目標2の数値の乖離を埋めていきたいと考えています。また、市民の感じる割合の目標値については、既に環境基本計画で定めた目標ですので、生活排水の計画でも同じ70%としたい、と考えています。

委員

環境基本計画の見直しはいつになるのか。

事務局

令和12年になります。

委員

言わんとしていることはわかるが、どっか書いておいたほうが良いと思う。そうい

う気持ちで環境啓発に取り組みますよ、ということ測定方法に書いておいてもらえれば、と思います。

委員

汚水処理人口普及率を90%にするというには、非常に魅力的。ぜひ、実践をして欲しい。これを達成するためのロードマップ、合併処理浄化槽の普及が大切なのか、と思う。下水道事業の中止に伴う予算を回して、浄化槽への追加の補助はできないのか。下水道も浄化槽も社会のインフラとして同じ位置づけされている。浄化槽の維持管理については個人負担になっているため、下水道との格差があると感じる。そういった面でも浄化槽が下水道と同じ扱いを受けたら、普及は早いのではないかと。補助金が最も有効、積極的に拡充して欲しい。

事務局

合併浄化槽への転換補助のみ市が実施している。この業務が4月から移管されたが、この業務をどう展開していくのか、それは今後の課題として検討材料にしないといけなさと考えている。補助金を求められることは私たちも認識しているが、財政的などころもあってジレンマがある。汚水処理人口普及率が高められるよう、取り組んでいきたい。

委員

定量目標1に生活排水が適切に処理されていると感じる市民の割合があるが、適切という判断基準がわからない、そういった市民も多いのではないかと。生活排水が適切に処理というのは、どういう状況なのか、市民に知っていただくところも必要なのではないかと。適切に処理しているというイメージをお持ちであれば、教えて欲しい。

それに向けた啓発、こういった状態が理想ですよ、といったツールはあるのか？

施策3のエコ生活ノートを活用した授業は、市内のどれくらいの学校で配布されているか、教えて欲しい。資料3は、知らない方も多いたと思いますが、災害時にぱっとでてこない、防災対策の団体とかとの連携、必要になってくると思うので、周知に力を入れて欲しい。キャッチフレーズは、具体的に行動が読めるので、4番が良いと思う。

事務局

定量目標1は具体的でない、わかりにくいところがある。これは総合計画の設問のひとつで、環境だけでなく各課、福祉や建築などがある。そのなかで、生活排水が適切に処理できている、という設問（18歳以上）で「そう感じる」「ある程度感じる」「あまり感じない」「感じない」で回答する、市内在住で3000人、年1回アンケートを取っている、ということになる。その値を定量目標として引っ張っている。70%という数字も、汚水処理人口普及率と対象が異なるため、そのまま比較は難しいのでは、と思う。次に、エコ生活ノートは、平成29年に作製し、ノートを配布しているのは、出前環境教室を申し込んだ学校が対象になる。申込があった学校に配布しているので、29年が八万小、30年も1校、元年も1校、2年度は3校に配布し、授業を行っている。

3番目のチェックシートは徳島市版を作製し、防災対策課とも協力し、市民に配布をしていきたい。また、いざという時にも見れるよう周知の方法を考えたい。また、携帯用トイレを配っており、地震などでトイレが使えなくなったら、浄化槽のチェックシートを使って、点検をしてもらおう。その後、使用できないと判断したら、携帯トイレや避難所のトイレを使っただけになる。

委員

思いのほか、配布数が少ない。より多くの子どもたちに届くことを願っています。また、一緒にできることがあればなあと思っています。

- 委員 エコ生活ノートは、何が適切な生活なのか、エコの観点からまとめたい本だと思うが、水処理のことが書かれていない。自分の家が下水道なのか、浄化槽なのか、その判断がわかっていない。だから、適切というのがわかっていない。啓発しているほうも、ちゃんとそこを周知して。定量目標が固定されているのなら、定量目標値を上げていけるようにエコ生活ノートを見直していけばよい。
- 委員 3校というと、3つの学級であったり、3つのクラスであったりするもので、それだったら100くらいになる。学校のほうでも校長会などがあるので、勝手に配布するとゴミになるので、いいものがありますよという宣伝をして欲しい。
- 委員 エコ生活ノートで、節水が温室効果ガスの削減につながるということが理解できた。徳島は大きな河川があるので水があるのがあたり前になっているが、こういうことがあるということをしっかり教えていかなければいけないと改めて思った。もし著作権が無いのなら、エコ生活ノートをHPで見れるようにして欲しい。紙ベースは無くす場合もあるので、1人1台タブレットを持ってるので、HPで御提示いただいても良いのではないかと。
- 委員 ワークシートもエクセルで作ってダウンロードしても良いのでは。ぜひ、そういう形でお願いしたい。
- 委員 SDGsに関わるものは、大きなことが起きてはじめてわかる。そういったものに日頃から関心を持ってもらうのは何がしらのしかけが必要。イベントや清掃活動などを入口にして関心を持ってもらう。子どもを入口に親もいっしょに巻き込んで関心を持ってもらう。興味や関心を持ってもらうのは小学生の段階だと思うので、出前教室などを入口にして関心を持ってもらうというのは、小さい頃から続けてもらったらSDGsになるのではと感じた。
- 委員 徳島の水処理の特徴は、浄化槽という。せっかく簡易トイレも配布しているのはすごいと思うので、そういうのもエコ生活ノートに反映させてもらおうと子どもも災害になるとトイレいけなくなるんだなということも意識してもらえと思う。
- 委員 単独浄化槽は合併槽の8倍も汚れを出しているのだから、単独浄化槽を合併にいかに進めるかが大切。また、法令規制を受けない飲食店、特に油が問題だろうと思う。中小河川を汚す原因になっていると思う。家庭での取り組みは全世帯が関係するので、集めると大きな問題になると思う。こういったところを重点的にやってもらいたい。
- 事務局 令和12年までに目標は達成できるんだろうけど、そういったところに注意して行政を進めていただきたい。
- 委員 小規模飲食店の排水は難しい問題がある。家庭の排水であれば、啓発で合併や単独槽の話から気づきに持っていければと思う。小規模飲食店についてはいろんな問題が起きてはじめて明らかになることが多い。未規制事業場の取り決めもありますので、これに基づく指導を現在、進めているが、さらにワンステップアップした形ができればということを考えていきたい。
- 委員 推進員さんとか啓発される側へのお願いですが、[現況と課題]が分かりやすく書かれているので、学習資料など啓発にあたっての情報提供をして。こうした情報が頭に入っていたら教え方も変わるので、ぜひ、この部分も伝えていただきたい。エコ生活ノートはホームページからダウンロードできるようにして欲しい。ただ、1ペ

ージ目のクールチョイスの目標値は古い数値が入っているので、誤解が無いよう加筆をしないと違って伝わるなと感じました。飲食店へのグリーストラップへの啓発も推進して欲しい。

事務局

エコ生活ノートはそのとおりだと思う。作成したのが平成29年、その時代の数値が入っている。ホームページにアップするにあたっては、数値を修正してからアップすべきかなと感じています。

委員

川内の下水道が縮小してしまうのは残念で、やはり下水道があるところはきれいで、例え単独槽が合併槽になっても雨水とか他の生活排水とかが流れて、下水道がくればきれいになるなと思ってたが、それが無くなってしまったから。今日も川内は住むところでないのかなあと思った。団地が大きな単独槽で処理をしており、合併槽にやり代えるにしても家の配置などで難しい。助成金が出たら踏み切る人も多いと思う。徳島市の状況もわかるが、エコ生活ノートは内容が充実しているので、ホームページで見るといいのですが。ノートをもっとたくさん学校に配布できたらいいなと思います。家庭の取り組み例については、まず、水を使うときの使い方が一番の基本になると思う。しょう油とか牛乳とか少し流すだけで水が汚くなるという話を出前教室で話をしてきた。子どもは吸収力がすごい。小さい子どもの教育に力を入れて欲しい。

事務局

小さい子どもの教育にも力を入れたい、と改めて思った。エコ生活ノートの内容は古い部分があるので、ホームページにあげる段階で内容の見直しをかけたい。内容の部分だけでも早くホームページにあげて、子どもに早く届けたい。下水道がいなくなったらおしまいではない、代わりにどのような支援ができるか考えていきたい。

委員

サブタイトルは、4番目がいい。下水道の整備計画が無くなって、みんなで積極的に水の環境を守っていくという意味で、マナーと書いてあるのがおもしろいかなと思う。他に意見はないでしょうか。無いようでしたら事務局に返したいと思う。

事務局

ありがとうございました。本日、いただきました意見を踏まえて、計画づくりを進めていきたいと思っています。

3 閉会